

独立行政法人福祉医療機構

平成 25 年度社会福祉振興助成事業

(福祉活動支援事業)

「交流サロン・お手伝い隊連携ハッピー事業」

活動報告書

平成 26 年 3 月

特定非営利活動法人 東上まちづくりフォーラム

はじめに

本冊子は、NPO法人東上まちづくりフォーラムが独立行政法人福祉医療機構平成25年度社会福祉振興助成事業に申請し採択された「交流サロン・お手伝い隊連携ハッピー事業」(以下ハッピー事業)について、事業実施の背景、概要及び実施結果をまとめた報告書です。

この事業を実施した埼玉県志木市は、首都圏近郊のベッドタウンとして発展してきましたが、昨今は子供たちの独立と住民の高齢化で「老人ひとり住まいと老々介護の増加」が課題となっています。マンション街として地域コミュニティの欠如も問題となっています。

本冊子が、各地で地域の実情に応じさまざまな福祉活動をされている、またはこれからされようとする方にとって一助になることを願っています。

平成26年3月

特定非営利活動法人 東上まちづくりフォーラム

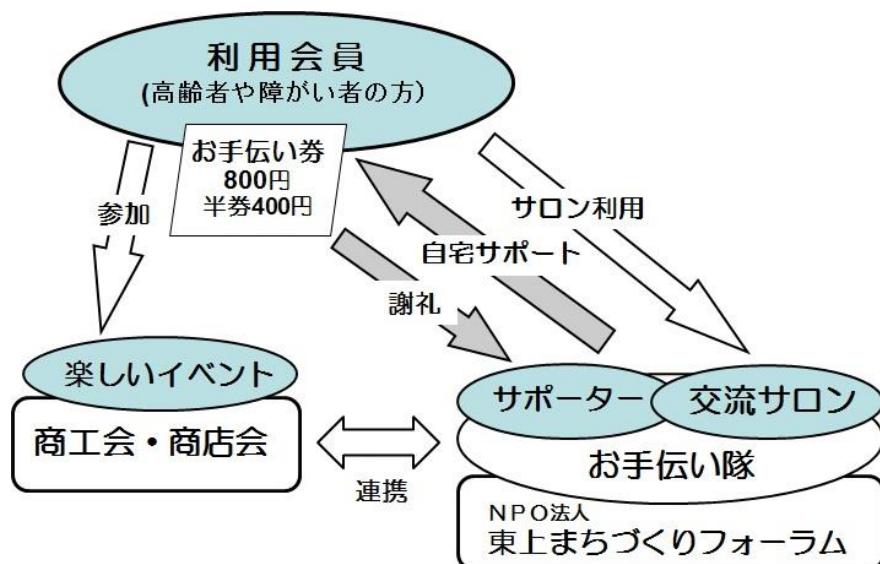
目 次

1. 事業の背景及び事業の目的 ······	2
2. 事業の概要 ······	3
3. 事業の実績 ······	5
4. 事業推進委員会及び広報活動 ······	17
5. 事業の成果と課題 ······	19
6. 今後の展望 ······	23

1. 事業の背景及び事業の目的

- ・ ハッピー事業は、平成 22 年度から 24 年度まで（2 年 9 ヶ月間）、志木市商工会から当 NPO 法人がサービス活動を受託実施してきた「志士市地域支え合いの仕組み推進事業」（地域支え合い事業）をさらに発展継続させ、「高齢者の孤立防止」を大きな柱として当 NPO 法人が独自に実施するものである。
- ・ 従来の地域支え合い事業が「高齢者・障がい者のお困りことを自宅に訪問し家族に代わってお手伝いする」という 1 件ごとの対応であるのに対し、ハッピー事業は高齢者交流サロン「ハッピー」を活用することで、高齢者・障がい者と継続的な関係を築きその生きがいづくりを支援する。
- ・ 高齢者のふれあいとお楽しみの場、生きがい（趣味）の発表の機会として、商工会や商店会と連携し、さまざまなイベントを主催する。
- ・ ハッピー事業の根幹は地域支え合い事業である。「地域支え合い・お手伝い隊」を着実に運営するとともにさらにそのサービスを向上し、ハッピーサロン、イベントとの連携をとりながら相乗効果を発揮する。

ハッピー事業のイメージ



2. 事業の概要

2-1. 高齢者交流サロン「ハッピー」

(1) 高齢者向け講座の実施

原則として午前（10：00～12：00）は、高齢者・障がい者を対象とする各種講座を開催する。

① 趣味・文化講座

高齢者の生きがいづくりを通して孤立予防、健康増進を図るため、絵画、押し花、折り紙、トランプゲーム、写真俳句など手先や頭を使う講座を開催する。

② 健康関連講座

高齢者の健康増進や病気予防に役立つ講座、終活術（人生の終わり方）として相続・遺言・成年後見の無料相談会を、専門家を講師に招き無料で実施する。

③ パソコン講座

地域の特性としてパソコンやインターネットの利用者が多いので、パソコンの基礎講座を開く。受講者は少人数とし、懇切丁寧な指導を心がける。

(2) 寄り合い処の提供

原則として午後（13：00～16：00）はサロンを無料の寄り合い処として開放し、コーヒーなどのドリンクも無料（セルサービス）で提供する。

また、テーマを決めて話し合うミーティング、楽しく遊べるイベントも実施する。

2-2. 商工会、商店会と連携したイベント

高齢者の生きがいの発表機会、ふれあいとお楽しみの場を提供するために、商工会、商店会と連携し、または独自にイベントを実施する。

イベントには地域支え合いに利用登録している高齢者にも呼びかけ参加を促すとともに、サポーターにもその運営の協力を依頼する。

2-3. 志木市地域支え合い・お手伝い隊の運営

前記高齢者交流サロン「ハッピー」との連携をとりながら、質においても規模においても従来よりも進化した支え合い事業を展開する。

① 高齢者交流サロン「ハッピー」との連携の目的

従来は利用者からお困りごとの依頼がありサポーターがそれを解決したら、高齢者とお手伝い隊との関係はいったん切れていた。今後はそうした高齢者にも積極的にサロンを利用いただき（講座・おしゃべり）、自ら能動的に活動していくよう働きかける。

② サポート記録一元化による情報共有

高齢者のお手伝い利用状況についてサポーター・受付スタッフ相互の情報共有を行い、お困りごとの解決に役立てるためお手伝い記録伝票を導入する。これらの情報はパソコンでも管理し、今後の支え合い事業の改善にも役立てる。
(個人情報保護には万全の対策をとるものとする)

③ 家族を巻き込んだサポート活動

孤立化、認知症への対策には初期段階から家族を巻き込んだサポートが望ましく、お手伝い隊と家族とでできるだけ密接なコミュニケーションを図る。これによって断絶夫婦や断絶親子が正しい現状認識と相互理解が実現できるようになる。

3. 事業の実績（平成 25 年 6 月 4 日～平成 26 年 3 月 31 日）

3-1. 高齢者交流サロン「ハッピー」

（1）高齢者向け講座の実施



「趣味・文化」講座、「健康関連」講座、「パソコン」講座の各講座を、延べ 111 回開催した。当初は参加者が少なかったものの毎月の案内、口コミなどにより、着実に地域に浸透し、10 ヶ月間で 492 名が参加した。

（写真は体験メイクアップ講座）

① 趣味・文化講座（有料）

今後の継続的な開催を可能にするため及び本人の学習意欲を継続いただくために有料で実施したが、「高齢者の孤立防止」の事業の目的を考慮し気軽に参加できる料金とした。

- 美沙と楽しむ絵画の集い
- 押し花を楽しむ会
- 折り紙教室
- いちから始める英会話
- 国際交流ゲームクラブ
- 写真俳句句会
- 統計学事始め

② 健康関連講座（無料）

- 認知症について
- スロージョギング入門
- 体験マイクアップ
- ちぎり絵手紙
- よく眠れるアロマテラピー
- 終活（相続、遺言、成年後見）相談会
- 相続セミナー「今日からできる！相続対策」

③ パソコン講座（有料）

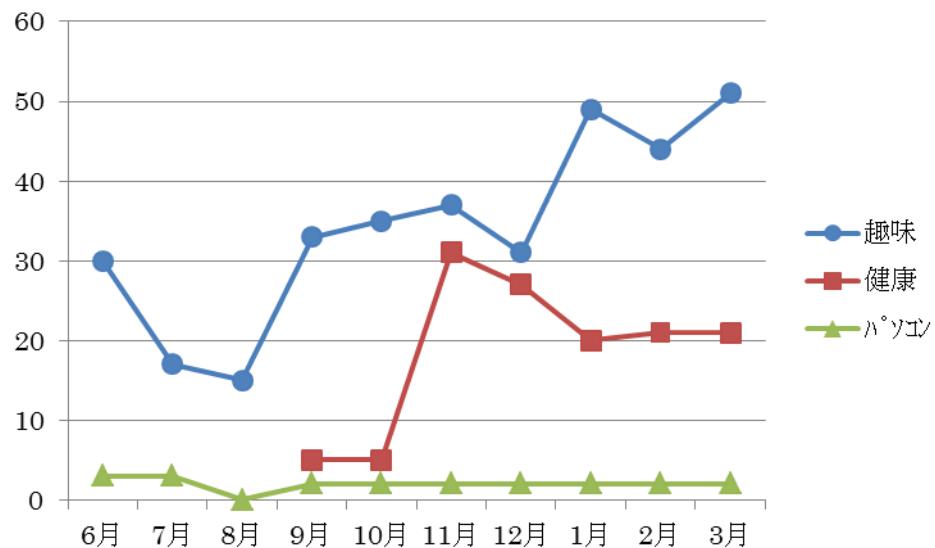
- 初めてのパソコン
- やさしいワード
- やさしいエクセル
- デジカメ入門

（2）講座実績及びアンケート結果

■月別開催講座数及び参加者数

月度	趣味講座		健康関連講座		パソコン講座	
	講座数	参加者	講座数	参加者	講座数	参加者
6月	5	30			2	3
7月	3	17			2	3
8月	2	15				
9月	7	33	1	5	2	2
10月	12	35	1	5	2	2
11月	8	37	4	31	2	2
12月	6	31	4	27	2	2
1月	8	49	4	20	2	2
2月	8	44	4	21	2	2
3月	10	51	6	21	2	2
計	69	342	24	130	18	20
講座当り	-	5.0	-	5.4	-	1.1

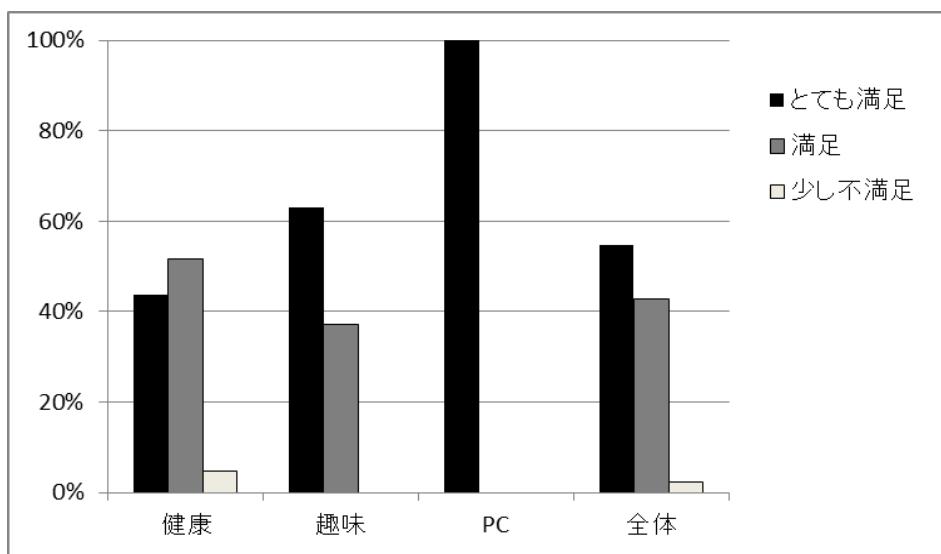
■参加者数の推移



■受講者内訳割合（アンケートより）

分類	男性	女性	~60歳代	70歳代	80歳代
健康関連	29%	71%	39%	45%	16%
趣味関連	22%	78%	56%	44%	0%
パソコン	17%	83%	83%	17%	0%
全講座	24%	76%	53%	41%	6%

■交流サロン満足度（講座アンケートより）



「とても満足」・「満足」の内訳

項目	趣味・文化	健康関連	パソコン	全体
①役立つ情報を得た	34.3%	15.4%	50.0%	27.6%
②日頃の生活に役立つ	39.2%	25.6%	16.7%	32.3%
③生きがいを得た	2.0%	15.4%	0.0%	7.3%
④他者との交流ができた	11.8%	38.5%	0.0%	21.9%
⑤自身の問題・不安の解消	9.8%	0.0%	33.3%	7.3%
⑥その他	2.9%	5.1%	0.0%	3.6%

①②④は特に評価が高かった項目

■高齢者から寄せられた声

お喋りができるのが楽しい

講座の受講者は同じ悩みを持って集まった人なので話題のテーマが絞られ、同じテーブルでお喋りできるのが楽しい。

新しい仲間ができてうれしい

近所の人たちとは過去の経緯があり今ひとつ素直になれないが、ハッピーサロンでの出会いは飾らずにお付き合いができる。

頭と手を使うところがいい

趣味・文化講座では、話を聞くだけでなく、適度に頭と手を使うところがいい。

■受講者の声（アンケートの感想欄より）

認知症について

大変重要なテーマなのでもっと多くの人が参加したらしい。

対象となる高齢者だけでなく、もっと若い人们も参加してもらいたい。

スロージョギング

路上で一人でやるのは少し恥ずかしいが皆でやると楽しくできそうだ。

高齢者にも無理なくできそうでさっそくトライしてみる。

体験メイクアップ

楽しく話しているうちに知らない人と友達になれた。

きれいになってうれしい。外出にも自信がもてそうだ。

終活相談

質問形式で進めるので分かりやすく、とても実践的だ。

遺言、相続は具体的にはどうすればいいのか迷っていた。続けて参加したい。

趣味・文化

楽しく学習できて、同じ町内の人もいて友達もできそうだ。

普段の生活とは違った空間で学習できて有意義な時間ももてる。

適度に努力して無理なく続けようと思う。

身近な素材（花、紙）で素晴らしい作品ができた。継続してやってみる。

パソコン講座

こんな身近なところに質の高い教室があったことに驚いた。

ほぼマンツーマン指導で大満足している。

(3) 寄り合い処の提供



原則として午後（13：00～16：00）はハッピーサロンを無料の寄り合い処として開放した。しかし当初は、一般の方がふらりと立ち寄り利用する人は少なかったので、「午前は講座の場」「午後はおしゃべりの場」の原則

を緩め、楽しくにぎやかな講座（認知症について、スロージョギング、体験メイク、終活相続相談など）は午後にスケジュール、寄り合い処としても利用いただいた。

3-3. 商工会、商店会と連携したイベント

（1）近隣商店会（ペアモール商店街）との連携

平成25年6月20日 「ペアモールサマーフェスタ」

キッズダンス、体力測定、認知症講座

来場者数 約260人

平成25年10月26日・27日 「ペアモール手づくり市」

個人または団体の趣味の手づくり作品の展示・販売

来場者数 約200名

平成25年12月20日 「ペアモールもちつき大会」



親子（園児）の餅つき体験、餅の無料配餅の無料配
来場者数 約150名
(うち園児約50名)

(2) 志木市商工会との連携

平成 25 年 11 月 17 日 「志木市民祭り」

個人または団体の趣味の手づくり作品の展示・販売、
菓子（ドーナツとカステラ）の仕入・販売

来場者数 約 200 名

平成 26 年 2 月 23 日 「法幢寺ふれあい梅まつり」



飴湯販売、菓子の仕入・販売
来場者数 約 150 名

(3) 独自企画

平成 25 年 9 月 9 日 「交流サロン「ハッピー」オープンイベント」

サロンの紹介、手作り紙芝居、講座紹介

来場者数 10 名

平成 25 年 11 月 27 日 「インストラクターと歩く平林寺」



森林インストラクターによる
武藏野（平林寺境内）探訪、
希望者による懇親会
来場者数 12 名

3-4. 志木市地域支え合い・お手伝い隊の運営

(1) 支え合い・お手伝い隊の仕組み

(利用者)

- 利用を希望する高齢者や障がい者は利用会員として登録し、あらかじめ「お手伝い券」(1枚 800円)を購入しておく
- お困り事が生じたらお手伝い隊事務局(以下、事務局)へ電話する
- 作業が終了したら謝礼として所定枚数の券をサポーターへ渡す

(サポーター)

- サポーターを希望する者はサポーター登録をする
- 事務局からの依頼で都合がつけば利用者の自宅を訪問し作業を行なう
- 受け取った「お手伝い券」は事務局において現金(1枚 500円)と交換できる

(2) お手伝い券の価格体系見直し

平成25年9月からお手伝い券(利用者負担)の価格体系、利用方法を下記の通り変更した。利用者にとって負担増となる作業もあるが事情を理解いただき、結果としてお手伝い券の販売枚数が減ることはなく、サポーターにはより多くの報酬を支払うことができた。

- 従来は作業内容にかかわらず一律、1時間につきお手伝い券(800円)1枚となっていたが、厳しい作業や技術を必要とする作業にはお手伝い券2枚いただくことに改定した
- 30分単位の作業を可能にするため、半券(400円)を新たに発行した



お手伝い券(右は半券)

(3) お手伝い隊活動実績

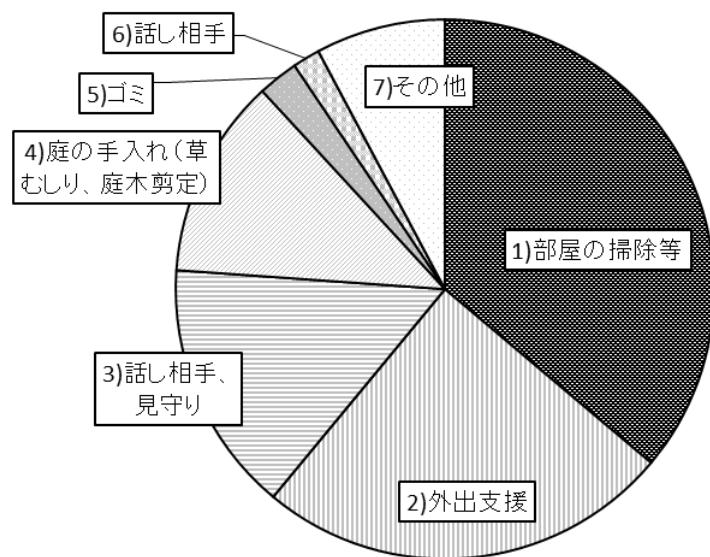
■お手伝い件販売数及び利用数（枚数は本券、1枚800円換算）

年月	販売数（枚）	販売額（円）	利用数（枚）	サボータ-謝金（円）
6月	99.0	79,200	92.0	46,000
7月	124.0	99,200	134.0	67,000
8月	142.5	114,000	89.0	44,500
9月	86.0	68,800	69.5	34,750
10月	139.5	111,600	91.0	45,500
11月	146.5	117,200	135.5	67,750
12月	142.5	114,000	156.5	78,250
1月	90.5	72,400	95.5	47,750
2月	118.0	94,400	79.0	39,750
3月	120.0	96,000	90.0	45,000
計	1,208.5	966,800	1032.5	516,250

■サポート項目別時間数

項目	時間	構成比
1)部屋の掃除など	373.0	36.1%
2)外出支援	257.0	24.9%
3)話し相手、見守り	156.0	15.1%
4)庭の手入れ(草むしり、庭木剪定)	124.0	12.0%
5)ゴミの梱包、ゴミ捨て	25.0	2.4%
6)買い物代行	17.0	1.6%
7)その他	80.5	7.8%
計	1,032.5	100.0%

■サポート項目別時間数内訳



(4) 利用会員の声 (ヒアリング調査より抜粋)

① 全体の仕組みについて

1 人住まいでの親族が全て遠方の女性

暮らす上で男手がないと不可能な重い物の移動や粗大ゴミの搬出、家の中の修繕や家電製品のトラブルなどお手伝い隊に依頼すればほとんどの事を対応してくれるので安心して1人住まいが出来るので助かっています。

要介護認定者の方

介護保険のホームヘルパーには、掃除や身の回りのことをお願いしているが作業時間単位が45分単位であり、作業範囲も保険対象外と言われてやってもらえない作業が多くて不満です。

その点、お手伝い隊は、身体介護以外であれば、前もって話しておくとどのような作業も引き受けてくれ、作業時間も多少オーバーしても対応してくれるので感謝しています。

子供が近くに住んでいるが足が多少不自由な女性

近くの郵便局での貯金の引き出しを娘に依頼すると何かと口を挟むが、お手伝い隊に依頼すると30分400円の謝礼で行ってくれ、さらにおしゃべりの相手までしてくれるので心が和んで助かっています。

高齢者施設で1人住まいの男性

高齢者施設のサービスとして、食事は食堂で食べられるものの部屋の掃除は住人が行なうとの約束で納得して住んでいるが、掃除が面倒でどうしてもゴミが散乱状態になる。定期的にお手伝い隊に来てもらっており、「文句を言わず」きれいにしてくれるので気に入って頼んでいます。

② 外出（散歩、通院、買い物）の支援について

1人で通院できない方

病院の付き添いについて、ホームヘルパーは病院内での面倒は見てくれないが、お手伝い隊は自宅を出発するところから病院に到着するところまで付き添い、車椅子の用意、外来受付も行なってくれる。診察室での立会い、会計の代行、さらに院外の調剤薬局での買物代行まですべて行なってくれるので安心して通院できる。

特に、待ち時間が長い間、子供が一緒だとお喋りも途絶えがちで長く感じるがお手伝い隊は自分に気を使ってくれるので寂しさや不安な気持ちにならずに通院できるのが助かります。

待ち時間が長い病院の予約代行

朝早くから再診機受付を行っている病院は9時に再診機受付を行なった場合、診察は3時間後の12時頃になります。お手伝い隊では前日に診察券を預かり翌朝早い時間に再診機受付を代行し診察券と受付票を利用会員に届けてくれます。その結果、利用会員は受付票の受付番号からおおよその診察開始時間を予測し、待ち時間が30分以内になるよう家を出かけられるので体も心も楽に通院できます。

膝が痛み医者から散歩しろと言われている方

介護保険の要支援者となっている。家から道路までスロープ坂があり 1 人歩行が困難で、散歩途上に膝が痛み歩けなくなってしまうことが多い。お手伝い隊に散歩介助をお願いしたところ、地域包括支援センターに車椅子の貸し出しを依頼してくれ、歩行困難な場所や散歩途上において膝が痛んだ場合は車椅子で支援していただいている。

お手伝い隊のおかげで安心して散歩に出かけられるようになりました。

③ 家中の作業について

Aさん

介護保険のホームヘルパーの掃除は掃除機をかける範囲しか行なってくれないが、お手伝い隊は床や窓の拭き掃除、さらにレンジフード掃除まで行なってくれるので専門業者に頼まなくても安価ででき助かります。

Bさん

季節変わりの衣類・布団などの入れ替えと整理、さらに部屋の模様替えと掃除まで行ってくれるので 1 人住まいでも困らず助かります。

④ 庭の手入れ

Cさん

夏の草取りや剪定などはシルバー人材センターに依頼していたが、最近高齢化で人手不足と言ってなかなか来てもらえない。お手伝い隊ではかなりの経験者が来てくれるので定期的にお願いしています。

4. 事業推進委員会及び広報

4-1. ハッピー事業推進委員会

推進委員会は事業を円滑に推進するため幅広い立場から事業の計画、管理及びとりまとめを行うもので、関連する以下の団体より委員の就任をいただき、全 4 回の委員会開催した。

志木市社会福祉協議会 事務局長

志木市町内会連合会 副会長

志木市商工会 事務局長

ペあもーる商店会 副会長

第1回委員会 平成25年8月20日(火)

主な議題；委員会規約採決、事業内容の紹介、各委員所属団体との協力の方法

第2回委員会 平成25年10月15日(火)

主な議題；各事業の実施状況報告、広報活動・講座ニーズについて

第3回委員会 平成25年12月17日(火)

主な議題；各事業の実施状況報告、アンケート集計途中報告、利用者満足度

第4回委員会 平成26年2月25日(火) 開催予定

主な議題；平成25年度活動のまとめ、事業継続のための課題検討

4-2. 広報活動

- ① 東武東上線 柳瀬川駅の改札口前にハッピーサロンの看板を掲示
- ② ハッピー事業案内チラシ及び講座案内チラシ（毎月）
 - ・近隣住民への新聞折り込みチラシまたはドアポスティング
 - ・公的機関（社会福祉協議会など）のチラシ置き場
 - ・協力団体（商工会・商店会・自治会）を通しての配布
 - ・イベント参加者への配布 毎月または隔月講座案内

- ③ 各種イベント案内チラシ
 - 近隣住民へのドア・ポスティング
 - 協力団体を通しての配布
- ④ 志木市地域支え合い・お手伝い隊案内チラシ（兼利用者・サポーター登録書）
- ⑤ ハッピー＆お手伝い隊通信の発行
 - 平成 25 年 8 月 8 日号
 - 平成 26 年 1 月 10 日号
- ⑥ NPO 法人ホームページ内にハッピー事業専用サイト設置
 - <http://happy.tojocity.org/>

5. 事業の成果と課題

5-1. ハッピー事業推進委員会

(成果)

ハッピー事業推進委員会は、①志木市商工会、②志木市社会福祉協議会、③志木市町内会連合会、④ペあもーる商店会の、地域と密接に関わる団体の方に委員に就任いただき、NPO 法人だけでは気付かないさまざまな視点から意見交換、広報における各団体の協力などにより、有意義な事業の計画、管理を行うことができた。

志木市商工会 …イベントの連携と志木市全域への広報

志木市社会福祉協議会…地域支え合い事業のあり方と今後の連携

志木市町内会連合会 …自治会活動の現状と新しいニーズの提案

ペあもーる商店会 …住民に密着したイベントを連携して実施

(課題)

今後の事業継続のためには、事業の計画、管理のみでなく、事業実行にあたっても各団体との広範かつ緊密な提携を行うことが重要と思われる。

5-2. 高齢者交流サロン「ハッピー」

(1) 高齢者向け講座の実施

(成果)

以下の講座を 10 ヶ月間に延べ 111 回開催し、492 名の受講者が参加した。アンケート結果においても全体に高い評価を得ており、参加者の年代も 70 歳以上の人々が 47% を占め、高齢者の孤立予防には一定の成果があった。

講座	回数	参加者	1回当たり
「趣味・文化」7 講座	69 回	342 名	(5.0 名)
「健康関連」7 講座	24 回	130 名	(5.4 名)
「パソコン」4 講座	18 回	18 名	(1.1 名)

- ・お手伝い隊との連携により、健康関連講座に利用者（高齢者）が多く参加した
- ・当初は参加者が少なかったが毎月の案内、口コミなどにより着実に地域に浸透した
- ・アンケートにおいては、「とても満足」・「満足」と答えた割合が97.5%ある
- ・受講料収入（趣味・文化講座）が計画よりも多かった
- ・お手伝い隊の利用者、サポーターからの提案による講座があった

（課題）

講座1回当たり平均参加者数はまだ少ない。「高齢者の孤立予防」の本来の目的を損なうことのないよう講座内容を考慮しながら、参加者の増加を図っていく。

- ・チラシ配布方法、募集方法を工夫してさらに集客力を高める
- ・一方通行の講座ではなくサークル活動のような運営を行い参加が楽しみにする
- ・商店街の商店、空き店舗などと協力し文化祭、展示会を開催する
- ・高齢者の生活に直接役立つ「健康関連」講座をさらに充実させる

（4）寄り合い処の提供

（成果）

原則として午後（13：00～16：00）はハッピーサロンを無料の寄り合い処として開放した。お手伝い隊の事務局に用事があって来訪した高齢者・サポーターは、（空いていれば）打合せや情報交換の場として利用した。

また、意見交換が多い講座や楽しくにぎやかな講座は午後にスケジュールして、講座の続きを寄り合い処としても利用いただいた。

（課題）

一般の方がふらりと立ち寄り利用する人は少なく、孤立防止のために高齢者同士のコミュニケーションの場とする当初の見込み通りには利用いただけなかった。寄り合い処としての利用を促進するためには以下のような取り組みが必要となる。

- ・チラシ配布方法、案内方法を工夫して知名度をアップする

- ・身近なテーマ（安全安心など）を決め自由に話し合うイベントを増やす
- ・地域支え合い・お手伝い隊との連携を高め口コミで広げる
- ・地域の小人数の打合せにも開放する

5-3. 商工会、商店会と連携したイベント及び独自企画イベント

(成果)

高齢者に楽しんでいただけるイベントとして以下を実施した。運営にあたっては地域の方や商店に協力いただき、予定通りにイベントが開催できた。全体では地域住民計約1000名が来場し、楽しい時間を過ごしていただいた。

ペアモール商店会連携イベント	3回	約610名
志木市商工会連携イベント	2回	約350名
独自企画イベント	2回	22名

(課題)

ほとんどがオープンな場で実施されたためアンケートをとることが困難で、「高齢者にふれあいとお楽しみの場を提供する」とする事業本来の成果の確認が、十分にできなかつた。

今後効果的にイベントを行うためには以下について検討が必要である。

- ・どんなイベントが適切か、事前アンケート、有識者会議、委員会などで熟慮する
- ・成果確認の方法について予め準備しておく
- ・イベントの実施だけでなく、その後のフォローにも注力する
- ・イベントによる収入が計画よりも少なかった

5-4. 志木市地域支え合い・お手伝い隊の運営

(成果)

「高齢者交流サロン」・「商工会、商店会と連携したイベント」との相乗効果により、お手伝い隊の利用登録者、サポーター登録者及びサポート時間ともに前年を上回った。

利用登録者 267 名 (前年比 32% 増)

サポーター登録者 130 名 (前年比 20% 増)

サポート時間 1,032.5 時間 (前年比 10% 増)

- ・志木市の推進する「志木市高齢者ホッとあんしん見守りシステム」に参加
- ・公的福祉機関（地域包括支援センターやデイサービスセンターなど）からの紹介によるサポートの増加

(課題)

この事業を今後も継続して実施していくためには以下の課題がある。

- ・サポーターが高齢化てきて、厳しい作業、複雑な作業には十分な対応ができない
- ・サポーターの増員、教育によるきめ細かいサポートの提供
- ・子供が直接親の面倒を見ることができるようとする対策（「親との接し方」講座）
- ・複雑な依頼が多く受付スタッフの負担が増加、受付業務の合理化も図る

6. 今後の展望

(1) 多様な主体との連携

ハッピー事業の活動範囲を広げ、さらに質の向上を図るためにには多様な主体（自治体、公的機関、商工会、商店会、NPO 法人、自治会、企業など）との連携が必要となる。

多様な主体との連携により、事業の実施はもとより、その企画、計画さらに結果の評価まで幅広く協働し、情報やノウハウを共有することで以下の効果をねらうことができ

- ・高齢者向け新規講座の実施
- ・新しいイベントの企画
- ・地域支え合いお手伝い作業項目の多様化
- ・新たな事業の柱の創設（介護者支援など）
- ・他の地域における同種サービスの展開

(2) 事業の継続性

今後も事業を継続するためには財務基盤を安定させる必要がある。ハッピー事業そのものにおける収入は、①講習会受講料②イベント収入③お手伝い券販売があるが、現状の運営では多くの金額は期待できない。サービスを低下させないで経費の圧縮を行なうにも限界がある。

財源確保の方法として今後以下を検討していく。

- ・付加価値の高いサービスを増やし利用者に納得いただける程度に料金を上げる
- ・利用会員の年会費制を導入する
- ・活動内容を広くアピールして企業・商店会から寄付金を募る

（3）介護保険制度の改定

平成27年度から予定されている介護保険制度要改定に伴ない、要支援者へのサポートが市町村ごとに変更される。志木市のサービス基準の変更内容は不明だが、高齢者にとって良くなるとは思えず、結果としてお手伝い隊への依頼が増えると予想される。サポートの確保と育成及び効率的な運営体制の確立が求められる。

「交流サロン・お手伝い隊連携ハッピー事業」
活動報告書

発行年月 平成 26 年 3 月

発 行 者 特定非営利活動法人 東上まちづくりフォーラム

住 所 埼玉県志木市館 2-5-2 鹿島ビル 4 階

電 話 048-473-0655

F A X 048-476-4607

U R L <http://www.tojocity.org/>